

平成26年度 研究紀要 第34集

発表テーマ

座間市教育史 第一巻 近代資料編の刊行

～郷土愛の育成につながる基礎資料～

教育史研究員会
教育史調査員

福田伸樹 川村香太 古川 修
野上剛志

1 教育史資料の編集

(1)座間市の教育史編さん事業

市政30周年記念事業として、市の教育史編さんが計画された。しかし当時は、学校の新規建設や市庁舎の建て直し等で、市の財政は非常に逼迫していた。

平成3年ごろから編さん事業が始まり、資料収集等の作業が開始された。平成12年に元校長で、以前から地域史や学校制度に詳しく、市文化財保護委員であった大谷之彦先生が教育史編集員に就任され、その後の教育史編さん作業に尽力され、大きく進展していくこととなった。

平成26年3月に「座間市教育史 第一巻 近代資料編」を発行するに至った。

(2)資料探しの苦労

座間市は他市に比べて教育史史料の編さんが遅れた。

戦時中、座間小学校のすぐ近くに陸軍士官学校（現キャンプ座間）があり、学校と軍の関係が深かったと考えられることと、相模原町との合併、分離独立など、他市と異なる状況があった。そのため多くの資料が焼却された。

そのような中で学校に奇跡的に保管されていたもの、個人宅にあるもの、県の保管する資料など、さまざまな資料集めに多くの時間が割かれた。

(3)実際に取り扱った資料

小学校に残された日誌、学校に関する国・県・郡からの通達、学校からの報告、新聞、個人の日記、手紙など、さまざまである。

せっかく入手した資料でも、手書きの文字の中には読み取りづらいものもあり苦労した。

2 本書の特長

本書のもっとも大きな特長は、すべての資料を年ごとにまとめ、その年の解説をつけているところにある。これによってさまざまな資料のつながりがわかりやすくなっている。

3 主な注目すべき資料

(1) 寺子屋、筆子塚

市内に残る筆子塚の石碑銘は、すべてできる限り正確に掲載し、解説を加えた。

(2) 教育行政と学校の変遷

国の学校政策がめまぐるしく変わる中、座間の人々がどう対処し、学校の名称や位置が変遷してきたかがわかる。

(3) 視学の学校巡視

文部省、県、郡の視学が学校を巡視し、どのような指導をしたか、他の資料に比べて記載が少なくない。

(4) 幼年会活動

座間には、幼年会と呼ばれる子どもたちの自主組織があった。皆仲良くして自分たちの町を良くしようと、さまざまな取り組みをしていた。これが学校教育に取り入れられ、座間の子どもたちが全員幼年会員として他の町では見られない活動をしていた。

本書はその資料として、幼年会創設者である鈴木利貞の日記など、多数掲載している。

4 本書の活用

資料が年度ごとに並び、それぞれ解説があることから、一般市民にもわかりやすいため、発行と同時にかなりの数が販売された。

学校関係者にとっても幼年会や座間の特色をあらためて知るのに役立っている。

今後、生徒や市民が、座間が気品ある教育尊重の町であったことを知り、郷土に愛着と誇りを持てるようになることを期待したい。

そして現在、昭和を扱った第二巻の編さん作業が続けられている。